



私たちはホスピス財団です

私たちの活動を知ってください

# 1. ホスピス・緩和ケアの原点とは

その人らしい生を支えることです。  
そして、さまざまな苦痛の緩和です。

これまでの医療は、  
治らないと分かっても、治療を継続したり、  
QOL (生活の質) よりも生命の維持を重視する傾向に  
ありました。

## ホスピス・緩和ケアの理念

- からだの痛みをやわらげます
- 心の不安をやわらげます
- 日常生活を少しでも快適に…。ボランティアもお手伝いいたします
- 家族の不安にも耳を傾けます
- あなたらしさをチーム一丸となって支援します

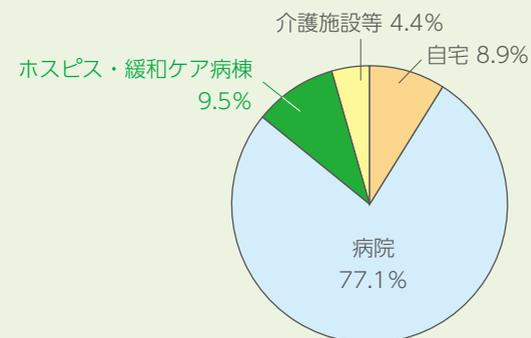
NHK 厚生文化事業団発行  
「ホスピスってなあに？」より引用



日本人の2人に1人が がんにかかり、  
3人に1人が がん で亡くなっています (全国健康保険協会)。  
日本には 300※1) のホスピス・緩和ケア病棟がありますが  
がんで亡くなる方の8割は病院で最期を迎えられ、  
ホスピス・緩和ケア病棟で最期を迎えられる方は 1 割です。

※1) 2014年2月現在

## がん患者はどこで亡くなるか



2012年度 厚生労働省ホームページより

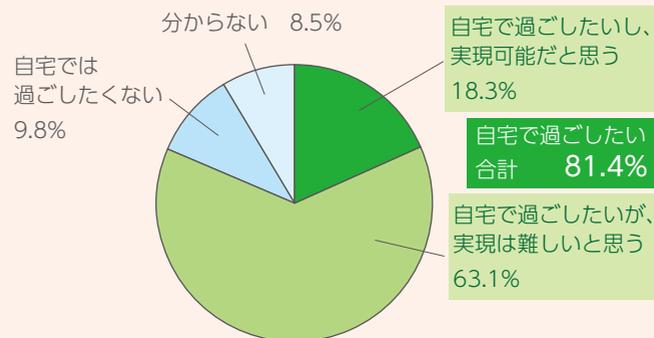
## 2. ホスピス・緩和ケアの充実が求められています。



### ホスピス・緩和ケアに携わる人の育成が急務です。

ホスピス・緩和ケア病棟の数を増やすことは勿論ですが、  
これからは  
高齢者介護施設でのホスピス・緩和ケアも求められます。  
また、自宅で最期を迎えたいという人の割合は8割と高く、  
在宅でのホスピス・緩和ケアの充実も求められます。

#### 余命が限られている場合、自宅で過ごしたい人の割合



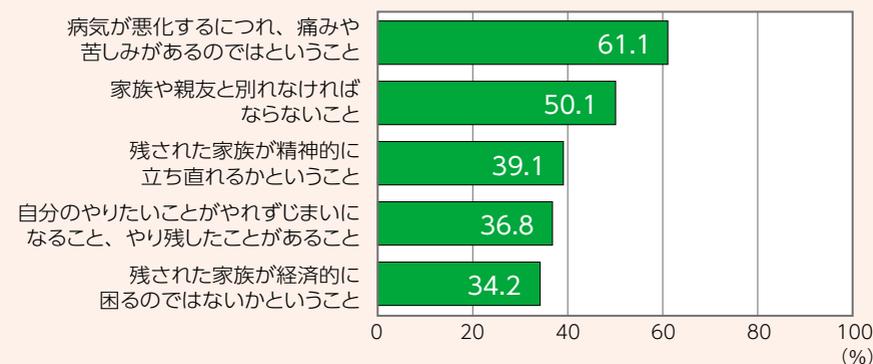
『ホスピス・緩和ケアに関する意識調査 2012』  
(公財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 より

### 患者、家族への心のケアも忘れてはならない大切な働きです。

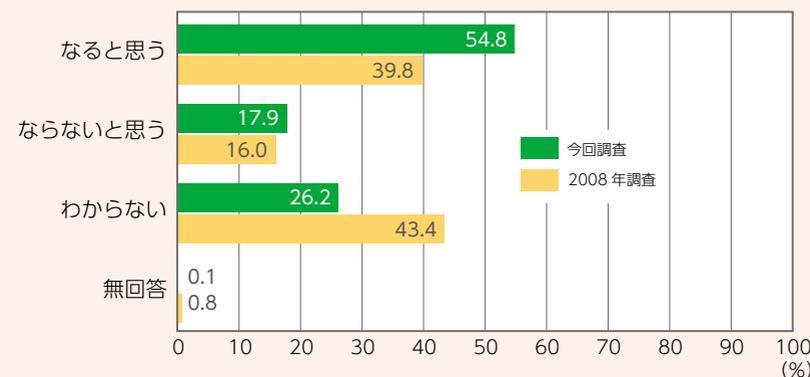
スピリチュアルケアに関する調査・研究と  
スピリチュアルケアを担う専門家の養成が、  
ますます必要となります。

日本スピリチュアル学会やグリーン研究所などがこの分野に取り組んでいますが、  
最近では大学においても、宗教的バックグラウンドを持ち、  
スピリチュアルを専門とする臨床宗教師を養成する動きがあります。

#### 死期が近い場合の不安や心配事



#### 死に直面したとき、宗教は心の支えになるか



表は、ともに『ホスピス・緩和ケアに関する意識調査 2012』  
(公財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 より

### 3. ホスピス財団は、ホスピス・緩和ケアの 質の向上に貢献します。

わたしたちは、  
人材育成と調査・研究を主な柱とし、  
普及・広報活動、国際交流を加えた 4つの事業を行っています。



#### 人材育成

- ホスピス・緩和ケアに携わる人材を育成します。

1. 職種を超えた教育プログラム
  - ・ Whole Person Care ワークショップ
  - ・ グリーフケア研修
2. 職種別の教育プログラム
  - ・ ソーシャルワーカー研修
  - ・ ボランティア研修 など



※ Whole Person Careとは、治療(Curing)と癒し(Healing)から成る新しい見方で、従来の考え方を根本的に変えるアプローチです。

#### 普及・広報活動

- ホスピス・緩和ケアを正しく知っていただくための普及・広報活動を行います。

- ・ ホスピス・緩和ケアフォーラム
- ・ ホスピス・緩和ケア白書 など



#### 調査・研究

- 質の高いホスピス・緩和ケアの提供を目指して様々な調査・研究を行います。

- ・ 「遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究」は2007年以来、2回実施され、いずれも1万人規模で行われ、世界的にも高く評価されている調査です。
- ・ オリジナリティのある調査・研究や非がん患者の実態調査にも、より一層の力を注ぎます。



#### 国際交流

- アジア太平洋諸国との交流を深め、地域のホスピス・緩和ケアの向上に努めます。

- ・ APHN (Asia Pacific Hospice Palliative Care Network) の会員として、国際交流に貢献します。
- ・ アジア太平洋諸国とホスピス・緩和ケアに関する共同研究を行います。

## 4. ご寄付のお願い



ホスピス財団の活動は、  
みなさまのご寄付で支えられています。

昨今の経済情勢や社会情勢の影響を受け  
厳しい財政環境に置かれています。  
ホスピス財団の活動をご理解いただき、  
賛助会員として、またご寄付を通して  
私たちの活動を支えてください。  
また、ご遺贈の相談も承っております。  
詳しくは、財団パンフレットやホームページをご参照ください。

 **ホスピス財団**

(公財) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団

〒530-0013 大阪市北区茶屋町 2-30  
電話 06-6375-7255  
FAX 06-6375-7245  
E-MAIL [hospat@gol.com](mailto:hospat@gol.com)  
ホームページ <http://www.hospat.org/>